

# プロジェクト科目 議事録

2006 年 10 月 26 日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名 E	学生 ID -
日時	2006 年 10 月 20 日 (金) 12:30~13:00, 15:00~17:50
場所	寒梅館、 寧静館 501
議題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ mixi と e-class の使い分けについて</li><li>・ D 作成の総括表をもとに話し合い</li></ul>
参加者	A, B, C, D, E, G, H, T (昼休み: A, B, C, E, G, H)
記録	<p>【配布物】 「文書確認・訂正マニュアル」(2006/10/20 A 作成)</p> <p>【使用機材】 会議撮影用ビデオカメラ、PC、プロジェクター、スクリーン</p> <p>【会議の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. mixi と e-class の使い分けについて (昼休み)</li><li>2. 「能」「ワークショップ」に関するサイト検索 (以下講義時間)</li><li>3. mixi と e-class の使い分けについて…昼休みの復習</li><li>4. D 作成の総括表をもとに話し合い<ul style="list-style-type: none"><li>・ 前回の話し合い後に各自が追加した項目について</li><li>・ 前回話し合っていない項目について</li></ul></li><li>5. 先週からの「オリジナリティ」についてのまとめ</li><li>6. 今後の流れ・次回までに準備すること</li></ol> <p>【会議内容】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. mixi と e-class の使い分けについて 前回の議事録に記載していた学内サーバの URL はメンバー以外にも公開されるため、非公開のサーバを用いることになった。 今回の議事録から、議事録・活動報告書をはじめとする文書は、e-class 掲示板 (mixi 能プロコミュニティにリンクあり。各自の大学の ID でログインすること) にアップする。 (詳細は「文書確認・訂正マニュアル」を参照のこと)</li></ol> <p>※注意すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ファイル名の統一 (文書名⇒日付 (半角) ⇒作成者)</li></ul>

- ・間にスペース等はいれない
- ・訂正後の文書名は、作成者の後に「<訂正者名」をつけていく
- ・提出期限…議事録は会議の2日後、活動報告書は木曜夜（時間は特に指定せず）
- ・mixi と e-class のそれぞれの用途
  - mixi : イベント（勉強会・鑑賞会など）の告知、情報共有
  - e-class : 議事録、活動報告書など文書のやり取り

## 2. 「能」「ワークショップ」に関するサイト検索

能プロ以外に、小学生対象の能ワークショップにはどのようなものがあるか、検索した。

検索のキーワードは「ワークショップ 能」

今後、サイト制作や企画に生かすため、さらなるリサーチが必要。

## 3. mixi と e-class の使い分け…昼休みの復習（昼休み会議欠席者に向けた連絡）

## 4. 総括について～総括表を参照しながら話し合い

\* 前回の話し合い後に各自が追加した項目について

〈紙芝居〉～移動式という形態について

- ・移動式の紙芝居はあまりないのではないかと（演劇では部屋・建物を移動する例があった）
- ・観客を引き込む手法として有効だが、子どもをスムーズに移動させるのは難しい

T) 継続的に調べるのなら、「読み聞かせ」をキーワードに調べてみるといい

〈体験ブース〉～謡・舞ブースの詳細

詞章プリント：（謡）流儀によって違う形式の詞章プリントを用意したが、指導方法やプリントの違いによる明確な差異はわからなかった。

（舞）詞章プリントの置き場に困る。必要ななかったかもしれない。

見台：ブース内の雰囲気が変わり、やる気を引き出すためにも有効だった。

舞：教え方の違いが顕著に現れる。

金剛流：金剛流能楽師 a が舞台中央で指導を担当し、金剛流能楽師 b が舞台袖で復習を担当。

2 グループが常に、一連の流れを、通しで練習する。

観世流：2 グループに分け、観世流能楽師 a が舞、観世流能楽師 b が謡部分を指導。

10 分で舞と謡が交替するため、通しでの練習回数は少ない。

〈関係者の感想〉

・小学生の感想は絵日記でよく分かったが、小学校の先生・能楽師の感想を聞くことができていない。

（小学校の先生の感想は、絵日記に添付されていたプリントに少し書かれていた）

※今後、能楽師と会う際、絵日記を見せて感想を聞いてみるのもよいのではないかと  
T) 小学校の先生の意見を知りたい、というのは重要。各ブースにはビデオ撮影者が配置されていたので、ビデオに映った先生方の反応を見ることができるのでは。

〈全体を通して〉～「面白能楽館」(注1)との比較

開催時間： (面白能楽館) 終日開催 ⇔ (能プロ) 2時間

※小学生の学びにもっとも適したプログラム構成・時間とは、という振り返りが必要

\* 前回話し合えなかった項目について

〈当日の運営〉～動線・タイムテーブル・タイムキーピング

- ・メンバーは動きや企画内容を把握していたが、外部協力者にとってわかりやすいものであったか(協力者に感想・意見を求めるべき)。
- ・校内放送+動線 は全体の流れを把握できたので、動きやすかった。
- ・時間が押す事ばかりを想定していたため、早く終わった時のタイムキーピングがむずかしかった。
- ・能楽師への説明不足もあった。さらに詳しい打ち合わせが必要だと感じた。

T) 経験を踏まえて言うと、やはりカンペが有効。打ち合わせの時間を持つというのは現実的には無理。カンペによるタイムキーピングが現実的。

〈勉強会〉～分類と効果・改善点

☆分類

- 観能(廣田鑑賞会能、薪能など)
- 学内に能楽師を招いての講習会(金剛流・観世流)
- 能楽師主催のイベント参加(面白能楽館、装束展など)
- 書籍による自主学習(『演目別に見る装束』(※参考文献参照)など)

☆効果と改善点

- ・たくさん見ることで見方が変化してきた(変化の例:鑑賞のポイントがわからない→メモを取りながら観能)
- ・参加できる人・できない人で、知識の差が開いているのが現状か  
→感想レポートをMLで流すことで、内容が把握できたのはよかった

T) 今年の勉強会参加のべ人数・参加回数は昨年(注2)に比べて倍くらい。

- 昨年度メンバー/能楽部半分 + 初心者半分
- 今年度メンバー/全員初心者(スタートは同じ)

初心者なのでもっと勉強しなければ、と思ったことがよかったのではないかと。

感想レポートの提出は、参加できなかった人も理解しやすくよかった。

⇒ 今後は、感想レポートに加えて、mixi を活用してイベントの告知をするなど、情報共有することになった

〈企画内容〉～企画段階での能楽師・小学校の先生との意見交換

- ・もっと積極的に提案していけたのではないか。

いいものを作るためにアドバイスをいただき、協力していただいた。こちらがしり込みをして、新たな提案を遠慮してしまった面はなかったか。もっと遠慮をせず提案していく事が必要。

《総括のプリントを見てのTからのアドバイス》

- ・展示方法の反省（展示物が少なかったので、演出の工夫でより見ごたえのあるものにできなかったか）ということについて。

→展示物の少なさを生かした展示ができたかもしれない。通常は前方向からしか見ることができない装束を、さまざまな角度から見られるようにする、というのもひとつのアイデアだと思う。

- ・小学生の呼び方は「児童」で統一するのか。  
文書の中で表記にゆれがあるのはどうか。

⇒ 今後、サイト素材を含めるすべての文書で、小学生は「児童」で統一

#### 5. 先週からの「オリジナリティ」の問題について

「オリジナリティ」というキーワードに対して、以下の2つの考え方が出された。

##### ①先週問題になった「オリジナリティ」

（話し合いの経過は10月13日分議事録参照）

- ・前回の話し合いの内容の確認：議事録訂正版のとおりである
  - ・前回の話し合いで、企画の変化の経緯について認識の違いが明らかになった。それが「オリジナリティ」という言葉に現れていた。
- 認識の違いを埋めるためにも総括は大事な作業である。

その時々での情報共有が重要であるが、春学期は不完全な部分があった。秋学期はmixiやe-classを活用して、情報共有を徹底する。

##### ②最終報告会、サイト制作を見据えた「オリジナリティ」

B) ここでのオリジナリティとは、春のワークショップでわたしたちが成し遂げたもののアピールポイントである。普段接点のない能楽師に、イベントを丸投げするのではなく、自分たちで考え、能楽師に要望を出していった事は、プログラム化するにあたり重要ではないか。「プログラムとしてのアピールポイント」という視点から、再現性も考慮に入れて、今後総括を生かしていかなければならない。

②の発言を受けて、Aから春と秋の企画の位置づけ、総括する意味などが説明された。

A) 春の企画と秋の企画をまったくの別立てにするのではなく、秋は春を土台に積み重ねるものである。総括は秋の企画をより安定したものにするために、春の土台を補

強させるものである。

春 + 秋 = プログラム

6. 今後はどのような流れで会議を進めていくのか

- I. 総括 ⇒ プロジェクトのゴールを決める ⇒ { Web  
企画
- II. 総括 ⇒ 秋企画 ⇒ ゴールが決まる

※今回の総括とG案を比較し、秋の企画を練っていく過程で、おのずとゴールは見えてくるのではないかと、ということになった。

今後は、まずWS第2弾の企画にとりかかる。

**次週は、総括とG案を比較し、企画の練り直し作業に取りかかる**

**【次週までの課題】**

- ・ 総括訂正版を見直してくる
- ・ G案と総括を比較し、企画のいい点・改善点をリストアップしてくる

※比較しながら企画を練りなおすため、下の二つの文書をどちらも各自プリントして  
ること

総括：e-classにアップ済み

G案：Gがe-classにアップする予定

(注1)「面白能楽館」…京都観世会主催で行われた、小学生とその保護者を対象にした  
能楽ワークショップ。

2006年7月29日、10:00~17:00、於・京都観世会館

(注2)「昨年度メンバー」…2005年度に行われた文学部特殊演習(プロジェクト科目)  
で、小学生の能楽入門をテーマにしたものがあった。  
文学部の設置科目ということもあり、メンバーは、文学部の  
学生や、能楽部の部員など、能についての基礎知識がある学  
生が多かった。